

## 生誕150年記念 板谷波山の陶芸

重要文化財 板谷波山《葆光彩磁珍果文花瓶》泉屋博古館東京蔵  
—「生誕150年記念 板谷波山の陶芸」より—

- 波山と石川【近現代工芸】
- 歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鏡Ⅱ  
【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 古九谷と再興九谷Ⅰ【古美術】
- 日本画 時の表現【近現代絵画】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
  - 7月の企画展示室
  - 学芸室の人々
  - 〔参加者募集〕友の会会員限定！バックヤードツアー
  - 〔参加者募集〕夏の予定は美術館！
  - アラカルト ただいま展示中

## 企画展(第7～9展示室)

# 生誕150年記念 板谷波山の陶芸

主催/石川県立美術館 特別協力/北國新聞社

後援/NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

協力/筑西市、公益財団法人波山先生記念会、廣澤美術館 企画協力/株式会社キュレーターズ

6月25日(土)～7月24日(日) 会期中無休

内側から光り輝くような柔らかい色調。端正で格調高い「葆光彩磁」を生み出した、陶芸家の板谷波山は、本年で生誕一五〇年を迎えます。制作において高い理想を掲げ、一切の妥協を許さない姿勢で臨んだ作品群は、今も多くの人々を魅了しています。

茨城県下館(現筑西市)に生まれた板谷波山(本名嘉七)は、東京美術学校(現東京藝術大学)で彫刻を学び、現在の石川県立工業高等学校に赴任しました。彫刻科の廃科後は、創設間もない窯業科で教鞭をとるかたわら、釉薬などの研究を重ねた後、陶芸家としてのスタートを切っています。

本展覧会は波山の故郷である茨城県筑西市に始まり、続いてゆかりの土地である石川県への巡回です。この節目の年を記念し、文化勲章を受賞した陶芸作家としての業績に加えて、その人となりにも分け入り、作品を通して波山という人物を描き出すものです。

### ■観覧料

一般…一〇〇〇円(八〇〇円)

大学生…八〇〇円(六〇〇円)

高校生以下…無料

\*2階コレクション展観覧料を含む

\* ( )内は65歳以上の方および団体料金(20名以上)

\*身体障がい者、精神障がい者保健福祉療育手帳をお持ちの方、またはミライIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

### ■関連行事

#### ◇講演会

演題:「板谷波山」

→近代陶芸界における役割とその成果

講師:荒川正明氏(学習院大学教授・本展監修者)

日時:6月25日(土) 13時30分～15時

\*聴講無料、申込不要

#### ◇映画上映会「HAZAN」(二〇〇三年制作 108分)

出演 榎木孝明 南果歩ほか

原案 荒川正明(本展監修者)

日時:7月10日(日) 13時30分～15時20分

定員:100名

\*申込方法など最新情報は当館公式ウェブサイトをご覧ください

#### ◇土曜講座

7月9日(土) 13時30分～15時

「波山と石川」 奈良竜一(学芸主任)

会場:石川県立美術館 講義室

\*聴講無料、申込不要

※感染症の状況により内容を変更する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご覧ください。ただくか、直接お電話にてお問い合わせください。

◆関連の特集展示「波山と石川」を、2階コレクション展(第5展示室)で開催します。あわせてお楽しみください。

# 波山と石川

6月25日(土)~8月1日(月) 会期中無休

## 板谷波山の「両腕」

板谷波山の作品の魅力はその端正な姿かたちにも、負うところが大きいでしょう。轆轤師として波山の制作を半世紀以上に渡って支えたのが、石川県小松市出身の現田市松げんだいしちまつです。現田が不慮の事故で亡くなった際に「両腕を失った」と語ったことは、つとに知られています。

## 学芸員の眼

本展第一章で展示された小さな観音聖像は、波山から筑西市内の戦没者遺族たちに贈られたもので、故人の名とともに「帝室技藝員」の朱印と波山の署名が記された桐箱に納められました。現田も戦争で息子を失い、同じ型の観音聖像を贈られています。残念ながら本展には出品されませんが、現田家のもののみ木箱は観音開きの厨子型です。現田の悲しみに寄り添う、波山の思いやりの深さが偲ばれます。

企画展「生誕一五〇年記念 板谷波山の陶芸」に関連した小特集展示です。

石川県での板谷波山は、一八九八(明治三十一)年から石川県工業学校(現石川県立工業高等学校)の彫刻科(のちに廃科となり窯業科)の教諭として働きつつ、休日には各地の窯をたずね、窯業技術の習得に励むなど、陶芸を中心とした生活を送っていました。また、当時在籍した優れた教員たちとの交流を経て、図案や釉薬の研究、築窯方法など、のちに個人で作品制作をおこなうための素地を固めたのも、この時期であるといえるでしょう。

本特集では、波山と石川県工業学校との関係に焦点を当て、同時期に教鞭をとった教員陣や波山の影響をうけた学生(のちに同校の教員となる)の作品と

ともに、陶芸作家として歩み始めた波山芸術の一端を紹介します。

波山と同時期に同校に勤めた北村弥一郎は、一八九〇(明治二十三年)年に東京工業学校卒業後、一八九七(明治三十)年から四年間、窯業科長を務めています。北村は《結晶釉花瓶》(石川県立工業高等学校蔵)にみる、キラキラした結晶を纏う釉薬の研究・開発を進めました。この結晶釉の技術は、波山が「葆光彩磁」をつくる上での技術的なベースの一つとなっています。

あわせて、石川にゆかりのある工芸作家達による「優品選」も開催します。さらに今年度新収蔵となった、二代伊藤伊斎の《寄木隅切飾箱》、《桑造山並風炉先屏風》の二点も紹介します。



二代伊藤伊斎《寄木隅切飾箱》



板谷波山《紫金磁葡萄彫紋花瓶》

《観音聖像》板谷波山記念館蔵

古美術(第2展示室)

# 古九谷と再興九谷 I

6月25日(土)~8月1日(月) 会期中無休

今回の特集を機に、改めて古九谷の歴史的背景を確認します。昨年、「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」で文化庁の補助を受けて開催した、企画展「加賀百万石文武の誉れ―歴史と継承―」の第三章「高山右近とキリシタンの記憶」で、加賀藩三代藩主・前田利常が推進した古九谷の生産を、禁教の状況下で、キリスト教信仰が日本・東洋文化と高度に融合した文化的所産として再考しました。そして、高山右近にゆかりのあるキリシタン遺品とともに、「キリスト教信仰記憶媒体」と古九谷を位置付けて、石川県指定文化財に指定されている六点を展示しました。江戸では生産できない色絵磁器という新たな領域に、「文化で幕府と戦う」利常の姿勢に共鳴して、セミナリオで西洋絵画を学んだ画家や、日本・東洋の画題

に精通した画家、そして九州から来たキリシタン陶工や中国人陶工、さらには野々村仁清周辺の陶工なども参画して、比類ない表現世界を創出しました。そこに対幕府の姿勢をさらに先鋭化するために、幕府が禁止したキリスト教信仰を含蓄させることは、極めて有効な戦略でした。たとえば《色絵鳳凰図平鉢》や《青手桜花散文平鉢》(いずれも石川県指定文化財)など、大胆かつ斬新な古九谷の意匠のゆえんは、キリスト教信仰の観点から平易に読み解くことができます。したがって、古九谷プロジェクトの推進者だった利常が一六五八年に没すると、古九谷の意匠も変容してゆきます。しかし、こうした変容によって、当初の古九谷がキリスト教禁教の観点から詮索されずに今日まで伝えられました。



石川県指定文化財 《色絵鳳凰図平鉢》

前田育徳会尊經閣文庫分館

# 歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鏡 II

6月25日(土)~8月1日(月) 会期中無休

昨年から、甲冑・陣羽織の展示にあわせて、加賀象嵌鏡を十二点紹介しています。前田育徳会から当館にて保管中の鏡は十三点なので、ほとんどが展示されていることとなります。鏡は受注生産品のため、同じ図柄はふたつとありません。それぞれの特徴と違いを楽しみながら鑑賞ください。

鏡とは、馬に乗った際に足を支えるための道具で、鞍に吊るして用いられます。足裏で踏み込むため、頑丈でなくてはなりません。鉄でできており、熱して叩くことによって成形され、ひとつ二キロほどの重さがあります。その鉄の表面には、金や銀などの異なる金属を嵌め込む象嵌の技術で模様があらわされています。表される模様は、牡丹や唐草、竹、瓢箪などの自

然、千鳥、亀、うさぎなどの鳥類や生物、障子や水引といった調度などさまざまです。あらわされたのは模様だけではありません。よく見ると、紋板の渡りの部分には「加州住」「金沢住」などの住まいとともに、勝尾氏、村沢氏、木坂氏などの象嵌師の名前も刻まれています。江戸時代の加賀藩、金沢は鏡の産地として知られ、將軍家に献上されたり、各地の藩主に贈られたりしました。それらを加賀象嵌鏡と称します。

鏡の見所は、正面にあたる鳩胸に施された模様のほか、舌裏にはまったく異なる模様があらわされる場合もあります。紋板の透かしも幾種類かあるように、豊かなデザイン性が特徴です。

《水引文金銀象嵌鏡》

## 優品選

6月25日(土)～8月1日(月) 会期中無休

第4展示室では、令和三年度に新しく収蔵品となった作品を展示します。日本画では鹿見喜陌しかみきよぢと松崎十朗の作品を展示いたします。鹿見作品は、自然を装飾的に表現する試みにより独自のスタイルを築く一歩となった《光》です。松崎作品は、令和三年秋に当館で開催し好評を得た個展で展示されたものです。内灘の海に取材した《記憶》や、日展で内閣総理大臣賞を受賞した最新の代表作《海へ》などを再びご覧いただけます。

油彩画では、県内画壇を牽引した高光一也の作品が収蔵されました。《収穫》は、抽象から具象に移り、鮮やかな色彩の人物画へと移行する時期に制作されました。画風の変遷期を示す重要な作品です。

彫刻の新収蔵は、石田康夫、岩山豊郁、清水良治による作品です。石田康夫が晩年、繰り返し制作したテーマである《危機》は、腰を曲げて顔を伏せ、片腕をあげる特徴的なポーズが印象に残ります。岩山豊郁《Kさんの首》は、石田康夫と互いに自信のある作品を交換した際に岩山が出したというエピソードがあります。清水作品については、今まで収蔵がなかった一九八〇年代の作品を含む三点が収蔵されました。故郷を想い、愛知県奥三河に伝わる祭りを題材とした《花祭り・鬼》などをお楽しみください。

美術館の核は収蔵品(コレクション)です。今回展示する作品も含め、コレクション展で石川ゆかりの作家・作品にふれていただければ幸いです。



清水良治《花祭り・鬼》

## 日本画 時の表現

6月25日(土)～8月1日(月) 会期中無休

古来「時間」は芸術において、重要な役割を担ってきました。特に音楽を始め、演劇、文学などは「時間芸術」ともいわれ、作品に流れる時間の推移が表現と強く結びついています。そのような時間の役割は、絵画にも見ることが出来ます。特に日本の絵巻物に顕著で、《信貴山縁起》や《伴大納言絵巻》では、右から左にスクロールすることで時間の流れを楽しむことができます。屏風でも、田植えから収穫までの時間の流れを六曲一双の画面に表した《四季耕作図》などは、時間芸術と見ることもできるでしょう。

展示では、そのような時間芸術の側面を備えた作品として黒田櫻の園《お水送りの神事》をとりあげます。毎年三月二日に小浜市神宮寺で行われる「お水送

り」神事を、時間軸に沿って構成した十連作です。ここから送られた水は、三月十二日に奈良東大寺二月堂「若狭井」に届くとされ、本作の向こうに、さらに十日の時間が流れていると見ることが出来ます。

また、このような時間の推移は「過去・現在・未来」の連続といえますが、見方によっては「過ぎ去ったこれまで(過去)」と、これから(未来)となります。一枚の画面に過去からの時間「これまで」をとらえた作品として古澤洋子《刻の堆積》、坂根克介《道化》などをご覧いただけます。

極めて短い瞬間や、明け方から真夜中につづく一日の時刻、さらに季節の風物など、「時」をめぐるテーマで日本画をお楽しみください。



古澤洋子《刻の堆積》

# 学芸室の人々

某オンラインゲームの影響で、刀剣の展覧会が盛況であることは、ご存知の方も多いでしょう。若い女性の来館者の方々が熱心に刀を観る姿から、自分が山田風太郎の『明治小説集』を読んで、明治の工芸に興味を持ったことを思い出しました。

社会の変革期、時代に翻弄された人々を、大胆にフィクションを交えて描き出した同シリーズ。読了後は以前苦手だった、やや装飾過多な明治の工芸に、職人たちの真摯な思いを投影し、技法や模様、作者の経歴を調べるのも楽しくなっていました。

きっかけは何であれ、興味を持って作品に相對する姿は尊い！と、心の中で手を合わせながら、今日も館内を回っています。

寺川 和子(学芸第二課長)

## 第8・9展示室 第50回記念 北陸二紀展

7月28日(木)～31日(日)会期中無休

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発見を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

北陸二紀展(研究会)は北陸支部会員が、十月に東京・新美術館で開催の第75回記念二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。世評を聞き、あわせて吉岡正人二紀会理事をはじめ委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。

新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して展示会を実施いたしますので、この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

◇入場無料  
◇後援／北國新聞社・テレビ金沢・北陸放送  
◇連絡先／北陸二紀会事務局 太田喜代司  
白山市田町27  
電話…0901896914080

## 〔参加者募集〕

# 友の会会員限定！ バックヤードツアー

もつとより美術館のことを知りたいとの皆さまのご希望にお応えし、普段は見られないバックヤードをめぐるツアーを開催いたします。友の会会員の皆さま限定です。この機会にぜひご参加ください！

日 時…7月24日(日)10時～11時

集合場所…美術館講義室 ※9時50分受付開始  
見学場所…荷解き場、業務用エレベーター、収蔵庫、燻蒸室、写真室、監視室(空調管理室)

※安全面等を考慮し、外からの見学のみの場所があります

対 象…友の会会員

定 員…10名 ※要申込・応募多数の場合は抽選

料 金…無料

申込方法…次ページ左下の「各プログラムへの申込方法」をご覧ください。

申込締切…7月3日(日)(必着)  
※申込はお一人様1通、2名まで

## 第7展示室 第11回 石川県日本画会展

7月28日(木)～8月1日(月)会期中無休

石川県日本画会はその趣旨を「日本画を志すものが、これまでの既存の概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、11回目の展示発表を行います。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料  
◇連絡先／石川県日本画会事務局 石崎誠和  
金沢市小立野5-11-1  
電話…076126213522

# 【参加者募集】夏の予定は美術館！

「工芸鑑賞+体験ワークショップ」  
やきものの世界を楽しもう！

\*展示室で作品鑑賞を行った後、手びねりで陶芸に挑戦しよう！

日時：7月3日(日) ①10時～12時

②13時30分～15時30分

対象：小中学生(定員各回10名)要事前申込・先着順

※小学生は保護者の方と一緒にご参加ください

料金：一〇〇〇円

申込：076-225-1371(県文化振興課平日9時～17時)

※電話または兼六園周辺文化の森HPにて受け付けております。

※定員に達している場合がありますので、お問い合わせください。



はじめてのうるし

\*コレクション展「はじめての工芸」を鑑賞した後、制作体験を行います。テーマは「漆のお皿に、○△□はんこをつけて、つなげてひろげてもようをつくろう！」

親子の回とオトナの回をご用意しております。工芸体験をみんなでお楽しみください！

はじめてのうるし 親子で楽しむ回

日時：8月9日(火)10時～12時

定員：親子10組(小学生とその保護者)

※要申込・応募多数の場合は抽選

材料費：おひとり二〇〇円(予定)

申込方法：このページ左下の「各プログラムへの申込方法」をご覧ください。

申込受付期間：7月1日(金)～7月22日(金)(必着)

はじめてのうるし オトナも楽しむ回

日時：8月9日(火)14時～16時

定員：10組(20名程度) ※要申込・応募多数の場合は抽選

材料費：おひとり二〇〇円(予定)

申込方法：このページ左の「各プログラムへの申込方法」をご覧ください。

※申込はお一人様1通、2名まで

申込受付期間：7月1日(金)～7月22日(金)(必着)

「キッズプログラム鑑賞講座」

わくわくわーくしーと

\*展覧会会期中、展示をもっと楽しく鑑賞できるワークシート「わくわくわーくしーと」を配布いたします。小学生以上のどなたでもお楽しみいただけますので、ぜひご利用ください。

配布：企画展「生誕一五〇年記念 板谷波山の陶芸」

【会期】6月25日(土)～7月24日(日)

コレクション展「はじめての工芸」

【会期】Ⅰ期 8月6日(土)～9月5日(月)

Ⅱ期 9月10日(土)～10月23日(日)

## 各プログラムへの申込方法

以下の各プログラムについては、必要事項をご記入の上、往復はがきまたはメールでお申し込みください。

\*「バックヤードツアー」

\*「はじめてのうるし 親子で楽しむ回」

\*「はじめてのうるし オトナも楽しむ回」

宛先：往復はがき〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館 「参加希望プログラム名」係

メール：ishibi@pref.shikawa.lg.jp

件名：「(参加希望)プログラム名」申込」

必要事項：①参加者氏名(全員分) ②電話番号(代表者のみ)

③参加希望日時 ④会員番号(友の会会員の方のみ)

## 《更》こう

縦190cm×横190cm  
昭和42年(1977年)

## 羽根万象 はね・ばんしょう

大正8～平成19(1919～2007)  
改組第7回日展

能登に生まれた羽根万象は、ジャワ島から復員後に上京、美人画の巨匠、伊東深水に入門します。深水門下ということもあり、画業の中では人物画、それも艶やかな女性像に目がいきがちです。しかし日展における二度の特選は、いずれも建物を中心にした風景画でした。羽根は当時の心境について「廢墟の中にニヨキニヨキ建つ大建築に物凄い興味があり、それは再建設へ向かう民族の逞しいエネルギーをここに見たような気がしたからだ」と述べています。

本作は、新宿副都心計画によって一九七〇年代に出現した高層ビル群の夜を描きます。画面中央に描かれるのが、最初に建てられた京王プラザホテル。当時は高層ビルなど一切ない新宿に、ただ一棟屹立した超高層建築でした。奥に見えるのが三角柱状の構造で知られる新宿住友ビル、そして側面の筋交いが特徴的な新宿三井ビルです。「画題となっている「更」は「ふ(更)ける」とも読み、夜が深くなるとの意味にもとれますが、「さら」と読めば、新しくなるという意味もあります。先述の作者の言葉からすると、これら超高層ビル群は戦後復興へのエネルギーの象徴と捉えることができ、作者は「更」の文字に「新しく生まれ変わる」との意味を込めたと読むことができます。

本作は第6展示室で開催中の特集「日本画時の表現」に展示しています。

## 次回の展覧会

令和4年8月6日(土)  
～9月5日(月)  
会期中無休

第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	1F企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	鴨居玲 創造の軌跡 【近現代絵画】	みんなで楽しむ はじめての工芸 I 【近現代工芸】	竹久夢二展 一憧れの欧米への旅— 【8/6～9/4】

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
特別陳列尊経閣文庫所蔵 『古事記』と 国宝『日本書紀』	古九谷と 再興九谷 II

ご利用案内
コレクション展観覧料 一般 370円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 7月4日は第1月曜日より コレクション展示室無料の日
7月の開館時間 午前9:30～午後6:00
カフェ営業時間 午前10:00～午後6:00 年中無休
7月は無休で開館しています

『石川県立美術館だより』に広告を掲載しませんか?  
石川県立美術館友の会会員・石川県立美術館協力者・  
県内各行政機関及び文化施設・全国の美術館・博物館へ 郵送配布! 2,500部発行

WEBお問合せ  
フォームはコチラ

詳しくはお問い合わせください

株式会社ウィット Tel.072-668-3275 株式会社ウィット 検索

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 Fax.072-668-3276 HP.https://wi-t.co.jp/

石川県立美術館だより  
第465号(毎月発行)  
2022年7月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL http://www.ishibi.pref.shikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。